

調査結果のまとめ

1 広報について

(1)「広報さがみはら」の閲覧状況

「広報さがみはら」をどの程度お読みになっているかたずねたところ、「よく読んでいる」(12.4%)と「ある程度は読んでいる」(32.8%)の2つを合わせた《読んでいる(計)》(45.2%)は4割半ばとなっている。一方、「あまり読んでいない」(20.7%)と「知っているが全く読んでいない」(19.5%)の2つを合わせた《読んでいない(計)》(40.2%)は4割となっている。また、『広報さがみはら』を知らない(13.6%)は1割を超えている。

(1-1)「広報さがみはら」を読んでいない理由

「広報さがみはら」を「あまり読んでいない」または「知っているが全く読んでいない」と答えた方に、読んでいない理由をたずねたところ、「読まなくても支障がない」(35.2%)が3割半ばで最も高く、次いで、「忙しくて読む暇がない」(23.3%)、「興味がない」(18.8%)、「読みたい記事がない」(16.9%)と続いている。

また、「その他」への回答として、「新聞を購読していない」、「家に届かない、手に入らない」などが多くあげられている。

(2)「さがみはら市議会だより」の閲覧状況

「さがみはら市議会だより」をどの程度お読みになっているかたずねたところ、「よく読んでいる」(2.2%)と「ある程度は読んでいる」(24.6%)の2つを合わせた《読んでいる(計)》(26.8%)は3割近くとなっている。一方、「あまり読んでいない」(25.1%)と「知っているが全く読んでいない」(20.6%)の2つを合わせた《読んでいない(計)》(45.7%)は4割半ばとなっている。また、『さがみはら市議会だより』を知らない(26.0%)は2割半ばとなっている。

(2-1)「さがみはら市議会だより」を読んでいない理由

「さがみはら市議会だより」を「あまり読んでいない」または「知っているが全く読んでいない」と答えた方に、読んでいない理由をたずねたところ、「読まなくても支障がない」(37.4%)が4割近くで最も高く、次いで、「読みたい記事がない」(25.3%)、「興味がない」(24.8%)、「忙しくて読む暇がない」(14.2%)、「文字が多すぎて読む気にならない」(13.0%)と続いている。

また、「その他」への回答として、「新聞を購読していない」、「家に届かない、手に入らない」などが多くあげられている。

(3) 市政について知りたいこと

市政について知りたいことをたずねたところ、「市が取り組んでいる重要施策」(36.0%)が3割半ばで最も高く、次いで、「まちの話題や地域のニュース」(32.4%)、「市の行事や催し物情報」(31.3%)、「地域の防災に関する情報」(23.8%)、「施設の利用案内」(21.9%)と続いている。

(4) 市の情報を得る手段

相模原市の情報を日ごろ何から得ているかたずねたところ、「広報さがみはら（紙面）」(42.0%) が4割を超えて最も高く、次いで、「インターネット（市ホームページなど）」(28.9%)、「自治会・公民館だより」(20.0%)、「家族・友人・知人・近所の人」(16.7%)、「新聞」(13.9%)と続いている。

(4-1) インターネットを利用する手段

相模原市の情報を「広報さがみはら（Web）」、「インターネット（市ホームページなど）」から得ていると答えた方に、インターネットを利用する手段をたずねたところ、「スマートフォン」(74.4%) が7割半ばで最も高く、次いで、「パソコン」(48.1%)、「タブレット端末」(11.6%)、「携帯電話」(5.3%)と続いている。

エスディーゼー

2 SDGsについて

(1) SDGsのロゴやアイコンの認知状況

SDGsのロゴやアイコンを見たことがあるかたずねたところ、「見たことがある」(46.6%) が5割近く、「見たことがない」(39.8%) は4割となっている。

(2) SDGsの認知度

SDGsを知っているかたずねたところ、「詳しく知っている」(4.8%)と「知っている」(38.3%)の2つを合わせた「知っている(計)」(43.1%)は4割を超えている。一方、「聞いたことはある」(28.9%)と「全く知らない」(26.5%)はともに3割近くとなっている。

(3) SDGsの達成に向けて実践していること

SDGsの達成に向けて実践していることをたずねたところ、「プラごみ削減のため、マイバッグやマイボトルを使っている」(76.5%)が8割近くで最も高く、次いで、「食品ロス（食べ残しや賞味期限切れによる食品廃棄）の削減を意識している」(63.5%)、「温室効果ガスの排出抑制を意識している（節電や公共交通機関の利用など）」(23.2%)、「家事や育児の分担など、ジェンダー平等を意識している」(13.8%)と続いている。

アイシーティー

3 ICTに関する利用状況や要望について

(1) インターネットの利用機器

どのような機器でインターネットを利用しているかたずねたところ、「スマートフォン」(74.3%)が7割半ばで最も高く、次いで、「自宅のパソコン」(47.6%)、「タブレット端末」(18.5%)、「自宅以外のパソコン」(14.4%)、「インターネットに接続できるテレビ」(8.0%)と続いている。一方、「インターネットは利用していない」(9.7%)は1割となっている。

(2) ICTを活用した相模原市のサービスの利用経験

ICTを活用した相模原市のサービスを利用したことがあるかたずねたところ、「図書館蔵書検索・予約システム」と「スマートフォンアプリ」（ともに10.9%）、「さがみはらネットワークシステム（公共施設予約システム）」（10.6%）、「電子申請システム」（10.4%）がいずれも約1割となっている。一方、「利用したことはない」（57.1%）は6割近くとなっている。

(3) ICTを活用してほしい施策

相模原市のどの施策にICTを活用してほしいかたずねたところ、「消防・防災対策」（41.0%）が4割を超えて最も高く、次いで、「保健医療対策」（31.3%）、「高齢者対策」（30.8%）、「環境・ごみ・リサイクル対策」（28.5%）、「防犯・風紀対策」（24.2%）と続いている。

(4) ICTを活用した施策をどのようにすべきか

相模原市がICTを活用した施策をどのようにすべきかたずねたところ、「今よりさらに進めるべき」（20.8%）と「優先順位をつけ段階的に進めるべき」（45.7%）の2つを合わせた「進めるべき（計）」（66.5%）は7割近くとなっている。一方、「あまり進めるべきではない」（0.5%）と「進めるべきではない」（0.1%）の2つを合わせた「進めるべきではない（計）」（0.6%）はわずかとなっている。

4 健康づくりについて

(1) 健康状態

現在の健康状態をたずねたところ、「とてもよい」（15.9%）と「まあよい」（66.6%）の2つを合わせた「よい（計）」（82.5%）は8割を超えている。一方、「あまりよくない」（14.2%）と「よくない」（2.2%）の2つを合わせた「よくない（計）」（16.4%）は1割半ばとなっている。

新型コロナウイルス感染症の拡大前と比較してどのように変化したかたずねたところ、「良くなった」（2.3%）と「少し良くなった」（8.3%）の2つを合わせた「良くなった（計）」（10.6%）は約1割となっている。一方、「少し悪くなった」（20.7%）と「悪くなった」（6.0%）の2つを合わせた「悪くなった（計）」（26.6%）は3割近くとなっている。また、「変わらない」（60.7%）は約6割となっている。

(2) 健康状態や健康づくりの取組の変化

健康状態や健康づくりの取組にはどのような変化があったか、13項目に分けてたずねた。

- (1) 体重では、「増えた」（28.7%）が3割近くで、「変わらない」（57.8%）は6割近く、「減った」（11.6%）は1割を超えている。
- (2) 血圧では、「上がった」（9.7%）が1割で、「変わらない」（85.3%）は8割半ば、「下がった」（2.3%）はわずかとなっている。
- (3) 視力では、「良くなった」（0.6%）がわずかで、「変わらない」（70.4%）は7割、「悪くなった」（26.5%）は3割近くとなっている。
- (4) 筋力では、「付いた」（3.9%）がわずかで、「変わらない」（53.1%）は5割を超え、「落ちた」（40.1%）は4割となっている。

- (5) 精神的疲労では、「増えた」(47.5%)が5割近くで、「変わらない」(46.2%)は4割半ば、「減った」(3.3%)はわずかとなっている。
- (6) 生活習慣では、「規則正しくなった」(10.4%)が1割で、「変わらない」(75.1%)は7割半ば、「不規則になった」(11.8%)は1割を超えている。
- (7) 歯や口腔の状況では、「良くなった」(3.0%)がわずかで、「変わらない」(81.4%)は8割を超え、「悪くなった」(13.1%)は1割を超えている。
- (8) 食事のバランスでは、「良くなった」(9.4%)が約1割で、「変わらない」(78.7%)は8割近く、「悪くなった」(9.5%)は1割となっている。
- (9) 運動量では、「増えた」(6.5%)が1割未満で、「変わらない」(44.4%)は4割半ば、「減った」(46.6%)は5割近くとなっている。
- (10) 飲酒量では、「増えた」(7.8%)が1割未満で、「変わらない」(65.2%)は6割半ば、「減った」(13.4%)は1割を超えている。
- (11) たばこでは、「禁煙した」(5.8%)が1割未満で、「変わらない」(72.8%)は7割を超え、「喫煙するようになった」(1.5%)はわずかとなっている。
- (12) 人とのかかわりでは、「増えた」(1.7%)がわずかで、「変わらない」(28.6%)は3割近く、「減った」(66.7%)は7割近くとなっている。
- (13) 定期的な健(検)診では、「以前と同様に受診した」(59.9%)が6割で、「受診しなくなった」(18.3%)と「もともと受診していない」(18.8%)はともに2割近くとなっている

(3) 健康づくりを進めていくために必要な取組

新しい生活様式を踏まえた中で健康づくりを進めていくためには、どのような取組が必要かたずねたところ、「自宅や屋内で簡単にできるストレッチやクッキング等の動画配信」(45.1%)が4割半ばで最も高く、次いで、「広報さがみはらやFM放送等での定期的な情報提供」(22.8%)、「歩数計アプリを活用した運動習慣定着」(21.3%)、「運動プログラムの紙ベースでの配布」(14.9%)と続いている。

(4) 健康づくりのために行っている取組

現在、自分の健康づくりのためにどのような取組を行っているかたずねたところ、「食事の内容を注意している」(49.4%)が約5割で最も高く、次いで、「十分に睡眠や休息をとっている」(31.6%)、「なるべく歩くように心がけている」(29.8%)、「趣味を楽しんでいる」(22.7%)、「規則正しい生活を送っている」(21.4%)と続いている。

(5) 新たに健康づくりに取り組むきっかけづくりに必要な取組

新たに健康づくりに取り組むきっかけづくりに、どのような取組が必要かたずねたところ、「健康診断(人間ドック含む)の受診料補助」(62.0%)が6割を超えて最も高く、次いで、「健康になると特典(金銭的なメリット含む)が受けられる商品・サービス」(31.1%)、「健康食品の無料配布や割引斡旋」(21.8%)、「企業への従業員の早帰りの推奨」(19.3%)、「運動機会の提供(イベントの開催等)」(18.4%)と続いている。

(6) 健康づくりに関する意識の向上のために必要な方策

健康づくりに関する意識を向上していくためには、どのような方策が必要かたずねたところ、「歩いて楽しめる遊歩道の整備、歩きやすい道の整備、夜間照明の強化」(61.8%)が6割を超えて最も高く、次いで、「健康遊具の充実や健康拠点となるスペースの整備(気軽に運動できる環境づくり)」(38.8%)、「検診の受診やウォーキング等の取組でポイントがもらえる仕組みの導入」(20.2%)、「食生活を見直すための情報提供」(19.9%)と続いている。

5 里親制度の認知度について

(1) 里親制度の認知度

里親制度を知っているかたずねたところ、「知っている」(35.1%)が3割半ば、「聞いたことはある」(45.8%)は4割半ばとなっている。一方、「全く知らない」(17.9%)は2割近くとなっている。

(1-1) 里親制度を知ったきっかけ

里親制度を「知っている」と答えた方に、どのようなきっかけで知ったかたずねたところ、「テレビ番組やテレビCM」(56.3%)が5割半ばで最も高く、次いで、「広報さがみはら」(11.8%)、「身近に活動をしている人がいる」(8.6%)と続いている。

(1-2) 里親の活動で知っているもの

里親制度を「知っている」と答えた方に、知っている里親の活動をたずねたところ、「実の親や親族と暮らせるまで、もしくは、子どもが自立するまで、長期的に子どもを養育する」(74.7%)が7割半ばで最も高く、次いで、「実の親の元へ戻れない子どもと養子縁組し、実子として育て上げる」(70.1%)、「施設に入所している子どもを、週末や夏休みなどに自宅に受け入れ、一緒に過ごす」(27.5%)、「保護者が病気で養育できなくなったなどの理由で、緊急に、一時的に子どもを預かる」(25.9%)と続いている。

(2) 里親活動の取組意向

里親活動をしてみたいかたずねたところ、「既に行っている」(0.3%)と「してみたい」(2.6%)はともにわずかとなっており、「検討してみたい」(13.4%)は1割を超えている。一方、「したくない」(76.6%)は8割近くとなっている。

(2-1) 里親活動に取り組むための条件

里親活動を「してみたい」「検討してみたい」「したくない」と答えた方に、どのような条件が整ったら里親活動に取り組もうと思うかたずねたところ、「養育費などの金銭面のサポートが得られれば」(24.2%)が2割半ばで最も高く、次いで、「家族や親族、同居人の理解や育児の協力が得られれば」と「時間に余裕があれば」(ともに16.9%)、「里親になるための相談や育成、里親活動中のフォローなどを一貫した支援機関が行ってくれれば」(13.0%)と続いている。一方、「どのような条件であっても、里親活動は難しい」(42.8%)は4割を超えている。

6 高齢者の生きがいづくりなどに関する取組について

(1) 「高齢者」だと思ふ年齢

一般的に何歳からを「高齢者」だと思ふかたずねたところ、「70歳以上」(41.7%)が4割を超えて最も高く、次いで、「65歳以上」(18.3%)、「75歳以上」(16.9%)、「80歳以上」(8.3%)、「60歳以上」(7.4%)と続いている。

(2) 高齢者の生きがいづくりのために力を入れるべき取組

高齢者の生きがいづくりのために力を入れるべき取組をたずねたところ、「高齢者の就労支援」(43.0%)が4割を超えて最も高く、次いで、「自らの知識や経験を生かすことのできる活動の場の紹介」(38.0%)、「生きがいや交流の場となる高齢者の施設等の充実」(33.4%)、「地域活動や社会奉仕活動などを行う団体への参加促進や支援」(17.4%)、「知識や技能を習得するための学習機会の提供」(13.2%)と続いている。

7 自転車の安全利用について

(1) 自転車保険の加入状況

自転車運転中の加害事故の被害者に対する賠償に備えた保険に加入しているかたずねたところ、「加入している」(40.0%)は4割となっている。一方、「自転車を持っているが、加入していない」(12.1%)が1割を超え、「自転車を持っているが、加入しているか分からない」(6.2%)は1割未満、「自転車を持っていない」(39.3%)は約4割となっている。

また、「自転車を持っている方」(「自転車を持っていない」+ 無回答者を除く)でみると、「加入している」(68.5%)は7割近くとなっている。一方、「加入していない」(20.8%)が約2割、「加入しているか分からない」(10.7%)は約1割となっている。

(1-1) 加入している保険の種類

自転車保険に「加入している」と答えた方に、加入している保険をたずねたところ、「個人賠償責任保険(特約も含む)」(70.6%)が約7割で最も高く、次いで、「団体保険または共済」(20.5%)、「TSマーク付帯保険」(12.8%)と続いている。

(1-2) 加入していない理由

自転車保険に「自転車を持っているが、加入していない」と答えた方に、加入していない理由をたずねたところ、「自転車にほとんど乗らないから」(46.8%)が5割近くで最も高く、次いで、「加入手続きの方法が分からないから」(22.5%)、「費用が掛かるから」(16.2%)、「事故の加害者になることはほとんどないと思うから」(15.0%)と続いている。

(2) 自転車事故の賠償に備える特約を付帯できる損害保険の認知度

自動車保険や火災保険に、自転車事故を起こした場合の特約保険を付帯できるものがあることを知っているかたずねたところ、「知っている」(56.9%)が6割近く、「知らない」(38.0%)は4割近くとなっている。

(3) 自転車に乗るときのヘルメットの着用状況

自転車に乗るときにヘルメットを着用しているかたずねたところ、「着用している」(1.7%)はわずかとなっており、「着用していない」(51.2%)が5割を超えている。「自転車には乗らない」(42.4%)は4割を超えている。

(3-1) ヘルメットを着用していない理由

自転車に乗るときにヘルメットを「着用していない」と答えた方に、着用していない理由をたずねたところ、「周りの人も着用していないから」(47.9%)が5割近くで最も高く、次いで、「暑かったり、重かったりするから」(38.3%)、「事故に遭うことはほとんどないと思うから」(19.4%)、「着用後に髪型を整えるのが面倒だから」(18.9%)と続いている。

(4) 13歳未満の子どもに対するヘルメットの着用状況

13歳未満のお子さんにヘルメットを着用させているかたずねたところ、「着用させている」(9.3%)は約1割、「着用させていない」(6.4%)と「自転車に乗らせていない」(3.7%)はともに1割未満となっている。

また、「13歳未満の子どもがいて、自転車に乗らせている方」(「自転車に乗らせていない」+「13歳未満の子どもはいない」+無回答者を除く)でみると、「着用させている」(59.4%)が約6割、「着用させていない」(40.6%)は約4割となっている。

(4-1) ヘルメットを着用させていない理由

13歳未満のお子さんにヘルメットを「着用させていない」と答えた方に、着用させていない理由をたずねたところ、「暑かったり、重かったりして、子どもに負担がかかるから」(34.1%)が3割半ばで最も高く、次いで、「周りの人も着用させていないから」(33.0%)、「費用が掛かるから」と「着用させたいヘルメットがないから」(ともに8.8%)と続いている。

(5) 保護者が幼児・児童にヘルメットを着用させる条例の努力義務の認知度

「相模原市安全に安心して自転車を利用しようよ条例」で、幼児や児童を自転車に乗車させるときは、保護者はヘルメットを着用させるよう努めなければならないことを知っているかたずねたところ、「知っている」(43.1%)が4割を超え、「知らない」(52.3%)は5割を超えている。

8 市職員の接遇について

(1) 市職員と接する機会の有無

過去1年間に市職員と接した機会についてたずねたところ、「あった」(52.0%)が5割を超え、「なかった」(46.6%)は5割近くとなっている。

(1-1) 市職員と接した用件

過去1年間に市職員と接する機会が「あった」と答えた方に、どのような用件かたずねたところ、「住民登録の手続きや住民票・戸籍・印鑑証明・マイナンバーカードなどの交付に関すること」(64.6%)が6割半ばで最も高く、次いで、「市県民税や固定資産税などの税金に関すること」と「国民年金や国民健康保険に関すること」(ともに17.7%)、「保育や介護など、児童福祉、障害者福祉、高齢者福祉に関すること」(17.1%)、「新型コロナウイルスに関すること」(13.9%)と続いている。

(1-2) 直近で市職員と接した用件

過去1年間に市職員と接する機会が「あった」と答えた方に、直近の用件をたずねたところ、「住民登録の手続きや住民票・戸籍・印鑑証明・マイナンバーカードなどの交付に関すること」(43.4%)が4割を超えて最も高く、次いで、「保育や介護など、児童福祉、障害者福祉、高齢者福祉に関すること」(10.6%)、「新型コロナウイルスに関すること」(9.4%)、「国民年金や国民健康保険に関すること」(7.8%)と続いている。

(1-3) 市職員の接遇態度

過去1年間に市職員と接する機会が「あった」と答えた方に、市職員の接遇態度について、10項目に分けてたずねたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の2つを合わせた「<そう思う(計)>」は、「(3)用件に対して正確に対処してくれた」(81.5%)が8割を超えて最も高く、次いで、「(1)用件(話)をよく聞いてくれた」(80.9%)、「(6)言葉づかいが良かった」(80.3%)、「(2)用件に対してすぐに対応してくれた」と「(10)全体として対応に満足できた」(ともに79.5%)と続いている。

(2) 市職員に求める接遇態度

市職員に求める接遇態度として、今後、より重要と思われることをたずねたところ、「用件に対し正確に対処すること」(59.0%)が約6割で最も高く、次いで、「対応が早いこと」(54.8%)、「説明がわかりやすいこと」(53.9%)、「用件をよく聞いてくれること」(35.8%)、「親切であること」(32.6%)と続いている。